

## 東北新幹線の30年とトリートの旅

沼尾 利郎

梅雨の晴れ間の6月下旬に、盛岡へ小旅行をしました。出発の朝、JR宇都宮駅の乗降客がずいぶん多いと思ったら、「東北新幹線開業30周年」のセレモニーを開催していたのです。今から30年前の昭和57年（1982年）6月に東北新幹線は開業し、「やまびこ」が大宮-盛岡間（505キロ）を平均時速210キロ・所要時間3時間17分で結び、東北地方を北関東からの日帰り圏内に変えました。今回の旅は盛岡市内の観光と郊外にある小岩井牧場のエコ・ツアーが主な目的でしたが、盛岡と言えば石川啄木や宮沢賢治ゆかりの地として有名です。奇しくも今年は啄木の没後100周年にあたり、記念の企画展によって彼らが青春時代を過ごした明治の地方都市の雰囲気を感じる事ができました。美しい石垣が名城の名残を伝える盛岡城址公園は、若き日の啄木や賢治がよく訪れていた場所でもあります。

「不来方（こずかた）のお城の草に寝ころびて 空に吸われし十五の心」（石川啄木）

盛岡城は別名を不来方（こずかた）城と言いますが、啄木は旧制盛岡中学時代によく学校を抜け出し、この場所で文学書や哲学書を読みふけりながら多感な時期を過ごしました。啄木と賢治という2大詩人が残した詩情あふれる作品を通じて、明治の日本人の真摯な生き方や生活は質素でも精神世界は豊かであった明治という時代を少しは理解できたように思います。

ところで、私が大学を卒業して医師になったのも30年前の昭和57年でした。当時の日本は戦後の経済成長がピークを迎えようとしていた時期であり、国民の間には一種の高揚感（熱気）と過剰な自信があふれていました。経済状況だけでなく臨床研修制度も現在とは大きく異なり、その頃の研修医は卒業大学と同じ大学病院の医局に入り、いくつかの関連病院に出向して臨床経験を積むというのが一般的なシステムでした。私は卒業後の30年間で13

回の異動を経験し、合計 10 カ所の病院に勤務しました。平均すると約 2 年半毎に病院を変った訳ですが最短で 3 ヶ月という時もあり、それにしても相当頻回な異動（今の言葉で言えばヘビー・ローテーション）でした。ちなみにヘビー・ローテーションの正しい意味は、「広告宣伝やコミュニケーションなどを短期間に何度も繰り返すこと」であり、マーケティングの用語だそうです。

「30 年」と言うはずいぶん長い年数ですが、私にとってはあっという間でした。若い頃は「忙しすぎてじっくり勉強するヒマもない病院」や「仕事は楽だが単調で何も得るものがない病院」に勤務して不満を感じた事もありましたが、振り返ってみるとすべて意義のある道のりだったと思います。ダメな病院にはダメな理由があり、反面教師つまりネガティブ・メンター（負の先導者）としての勤務経験は決してムダではありませんでした。

「いつか、すべてが 1 本の線につながるから」（スティーブ・ジョブズ）

今の若い人は結果をすぐに求めすぎる所がありますが、今は一見ムダに見える仕事でもその大切さは後になってから分かるものであり、やりたい仕事だけをやっていては本当の成長は望めません。「不安に満ちた時代」あるいは「逆境の時代」だからこそ、困難に挑戦して自分自身を鍛えて欲しいと思います。

英語にリトリート (retreat) という言葉があり、「日々の雑事から一時的に離れて、静かな心を取り戻すこと」「めまぐるしい日常から一時撤退して心のざわめきを止め、生きる力に満ちた自分を回復する場所・時間」という意味になります。ささやかな復興支援として出かけた今回の短い旅でしたが、私にとってはリトリートの旅ともなりました。